

かみをろう しもをろう
上ヲロウ・下ヲロウ遺跡 (本発掘調査B)

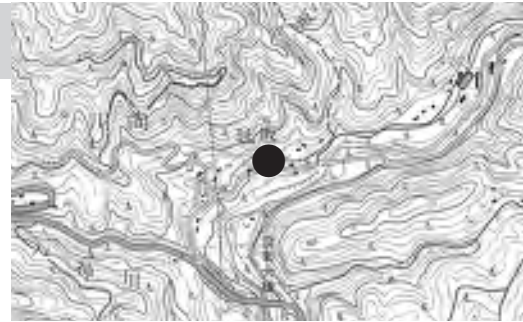
所在地 北設楽郡設楽町川向字上ヲロウ・下ヲロウ・中空
(北緯35度06分51秒 東経137度34分5秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 令和4年6月～7月

調査面積 340㎡

担当者 永井宏幸・川添和暁



調査地点 (1/2.5万「田口」)

調査の経過 調査は、国土交通省中部地方整備局による設楽ダムに伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受けて、令和4年6月から7月にかけて実施した。今年度調査区22区は、県道432号小松田口線の北側、調査区20C区に接して遺跡範囲の北西端に340㎡で設定された。



調査区位置図

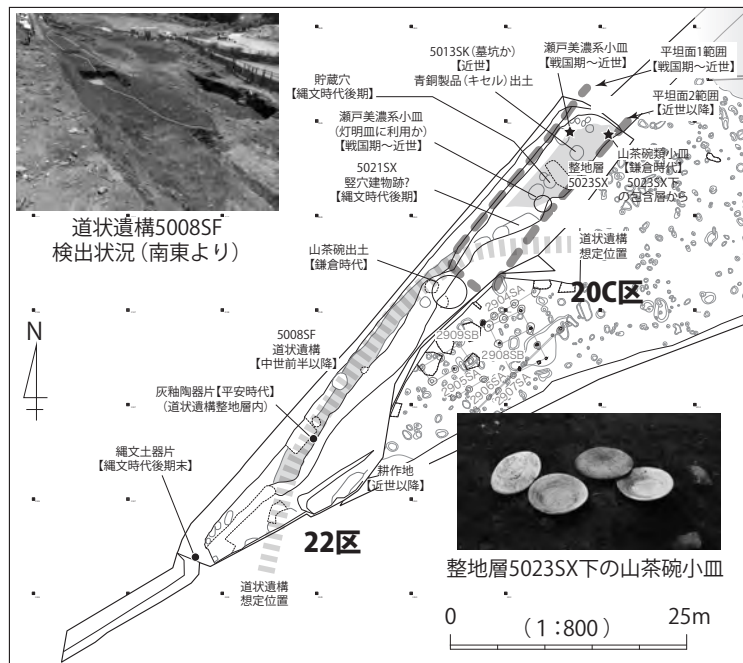
立地と環境 遺跡は、境川北岸の緩斜面上に立地する。当地には、斜面上方北側から幾筋もの沢が流れ込んで来ており、緩斜面は度重なる扇状地堆積（土石流堆積）の累積によって形成されている。今年度調査区の調査前の標高は、404～408mを測る。

調査の概要 調査成果は、以下の通りである。

時代・時期	遺構	遺物
縄文時代後期	竪穴建物跡?・貯蔵穴	縄文土器・石器(剥片)
古代～中世前半	道状遺構	灰釉陶器片・山茶碗類(碗・小皿)・土師鍋片
中世後半(戦国期)～近世前半	平坦面・整地層	瀬戸美濃系小皿など
近世	土坑(墓坑か)	青銅製品(キセル片)

集落への入り口となる道状遺構 特に注目される成果は、道状遺構が見つかったことである。道状遺構は、もともと浅い凹みの溝形状のところに、整地層が充填されていた。層には片麻岩礫のほか、炭化物粒や焼土が散在しており、灰釉陶器片や山茶碗・土師鍋片も出土した。この道状遺構は、北東側に昇るところで、戦国期から江戸時代の平坦面造成によって、途切れていた。当地は明治時代初期の地籍図や近世後半の村絵図にも、集落に入る道の存在が記載されており、今回の発掘調査でその存在が証明されたことになった。

(川添和暁)



2022年度調査区全体図